

# UIFA JAPON D'AUJOURD'HUI

今日の話 日本で活躍する海外の女性たち No.1

## ■CONTENTE

- TOPICS 広報活動計画  
 MESSAGE ドラツールUIFA会長からの手紙  
 第2回海外交流の会  
 第3回海外交流の会  
 今日の話 日本で活躍する海外の女性たちNo.1

## ■TOPICS

### 広報活動計画

広報では、会員間のコミュニケーションをより密にし、会の活性化と充実化を目指して、これまで発行のNEWS LETTERに加え、新しいミニ情報紙UIFA JAPON D'AUJOURD'HUIを発行することにしました。この新しい紙面では、テーマに基づく会員情報を中心に海外交流の会等催物の予告、今後の会の活動計画等UP-TO-DATEな話題をお届けします。情報の提供、寄稿などは是非ご協力ください。

UIFA JAPON 広報発行物スケジュール

年月	発行物	テーマ	催物等予定
'93/11	No.3 D'AUJOURD'HUI	日本で活躍する海外からの女性たちNo.1	
12			第2回海外交流の会 日韓シンポジウム(12/18)
'94/1	No.4 D'AUJOURD'HUI	各地からの会員メッセージ No.1	第3回海外交流の会 日・伊別シンポジウム(未定)
2			
3	No.5 NEWS LETTER	海外交流の会特集	女性科学者・技術者 国際シンポジウム(未定)
4			
5	No.6 D'AUJOURD'HUI	かがやく女性インタビュー No.1	
6			第2回UIFA JAPON総会
7	No.7 NEWS LETTER	第2回UIFA JAPON総会特集	
8			
9	No.8 D'AUJOURD'HUI	海外女性だより No.1	
10			
11	No.9 NEWS LETTER		
12			
'95/1	No.10 D'AUJOURD'HUI	日本で活躍する海外からの女性たちNo.2	

(注) UIFA JAPON の発行物は会員からの寄稿を主体とします。(毎25日発行)  
 NEWS LETTER A 4版 4ページ  
 D'AUJOURD'HUI A 4版 2ページ

広報担当 飯島

## ■MESSAGE

### ドラツールUIFA会長からの手紙

UIFA JAPON 第1回総会・記念講演会に対してドラツール会長より私ども会への祝福と欠席のおわび、お送りした品物(プログラム、ロゴ入Tシャツ、トレーナー、写真、新聞記事)に対するお礼の手紙が届きました。

Paris, September 16-th 1993

Dear President of UIFA - JAPAN,

Dear Mrs. Naoko Nakamura,

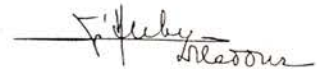
Much regretting being not able to attend your festivity day for the inauguration of UIFA - JAPAN, I wish to congratulate you for your achievement in founding your union, and thus assembling the Japanese architect women in one association. I also congratulate you, as through your efforts to establish your own union, UIFA will gain more respectability all over the world.

I thank you also for your friendship testimony and the gifts you sent me and I congratulate you for the choice you made for them.

I wish from all my heart that UIFA-Japan and UIFA, in a common effort, will continue their development in complete agreement and perfect harmony. This is a charming dream, aiming to strengthen friendships among architect women from different countries, and thus, to promote that wonderful profession all over the world.

Long live UIFA - JAPAN and UIFA!

Please dear President of UIFA - JAPAN, be sure of my great consideration and my faithful and true friendship.



Solange d'Herbez de la Tour

### 第2回海外交流の会 全 龍福—うるしを語る—

美術、工芸品の満艦飾 昭和の龍宮城の再生 1991年11月に竣工した目黒雅叙園。3年の歳月をかけ5000点を越える漆螺鈿品の修復、再現をなしとげた韓国の全氏と70人の弟子達。それから2年彼自身の漆芸品による“うるし礼讃展”。ひたすら漆芸を究める全氏と美術、工芸品のすべての修復品の監修を担当したアトリエMの平井美蔓さんがコーディネーターをつとめる日韓交流の会にご期待ください。

### 第3回海外交流の会 アナリザ モリーニ

—イタリアの高齢者居住環境について(仮題)—  
 “長寿社会と住い—バリアフリーを考える”の国際シンポジウムに参加するため来日される伊リ建築研究所ローマ分室長のアナリザ女史の講演。同じ高齢者先進国としての日本、避けては通れない大きな課題です。

## ■広報だより

No.4 D' AUJOURD' HUI の原稿を募集します。テーマは“各地会員からのメッセージ”です。仕事、職場、当地の生活など貴女のメッセージを 800字位にまとめ、写真、イラストを添え、12月15日迄に事務局広報担当までお送りください。

広報活動に協力いただける会員を募集しています。どうぞ事務局までお申し出下さい。お待ちしております。

Union Internationale des Femmes Architectes Japon

## UIFA JAPON 事務局

〒105 東京都港区芝公園3-1-8

芝公園アネックスビル(株)生活構造研究所内

TEL 03-3459-0221

## ■韓国からの留学生ハムさんとの対話



咸守日(ハムさん)さんはインテリア センター 3年生。来年3月卒業。京械道(キョソク)出身。東宅短期大学日本語学科卒。在日7年目の日本語が達者な38才のクリスチャン。

—なぜ建築の勉強を? なぜ日本に留学を?—

大学卒業後貿易会社に勤めたが、京械道にある143坪の自分の土地に自分で設計した家を建てたかった。日本は物価が高く辛いとは思ったが、親戚もおり、日本語を勉強していたので日本に留学することにした。

—日本での生活は大変でしょう?—

自分の全財産(退職金や父の財産)でソウルにマンションを購入し、賃貸して家賃で生活している。

—日本で困ったこと、面白かったことは?—

韓国では食事を通じ心を開いた付き合いが出来るが日本ではそれがなく、管理人や隣人と付き合い辛さにもなっている。敬老の習慣や家系や子孫の考え方なども違う。留学生が卒業後、実社会での実務経験や実地勉強の機会を認めない入国管理のあり方は疑問がある。欧米では会社が許可を取ってくれるのに、日本ではよほど特別条件がない限り帰国するしかなく、それが悲しい。この面の改善をUIFA JAPANなどの団体で是非運動して欲しい。

—日本の建築については?—

設計では住む人を大切に考えるなど日本の国民性が隅々まで感じられ、施工では日本では責任感が感じられるが、韓国ではそれが少ない(地震のせい)。韓国の建築界は依然男性重視でアメリカの影響も強く、だからこそ女性の働きがいもあり、勉強のために日本に来て良かったと思う。

非常に意欲的に真剣に質問に答える真面目さと真摯な態度の咸さん。帰国後の韓国の生活が実り多いことを願うばかりである。 中原暢子

## ■米国からの建築家 —キャロル・マンクー

マンクさんは1953年、ペンシルベニア州ベツレヘム生れ。数学が得意で美術や文学にも興味があったので建築に進もうと考え、バーモント州ミドルバリー・カレッジからマサチューセッツ工科大学に転入、都市計画を専攻。卒業後、日本行きを決意、大阪府立大学の研究生となり、2年間緑地計画を研究するかたわら、京都の社寺、庭園を見てまわりました。帰国後、カルフォルニア大学バークレー校の大学院で建築を学び、修士号を取得。



卒業後は建築設計事務所、アーバンデザイン事務所などで数々の設計に従事。この間大学院で一緒だったマイケル・パデ氏と結婚。夫君に日本を体験させてあげたかったこと、建築を通じて日米の架け橋になりたい気持ちが強まり、1988年再来日しました。

来日後、日建設計で国立横浜国際会議場の設計に携わり、ニューヨークのインテリアデザイン事務所マシーニ・ダッフィー・アソシエイツとの間に立って調整役を務め、現在ヘルムース・オバタ&カッサバウム(HOK)に移り、再び日建設計とのJVで仙台空港国際線旅客ターミナルの設計を担当しています。

日本とアメリカの設計方法の違いはとくに実施設計図の目的が違うことで、アメリカでの実施設計図は施工図に近く、すべての納まりが表現されており監理は図面通りできているか見ればよいのに対し、日本のものは見積り用図面であって納まりは施工会社が考えるところが多いように思われること、また、チームワークについては、アメリカの方が役割のヒエラルキーと仕事の分担がはっきりしており、日本とかなり違うとのことでした。

将来は架け橋の役割だけでなく、自分自身の建築家としてのポジションを確立したいそうです。

東 由美子